



金網(後方)に囲まれたフェ
ンス内農場で説明を受ける河
井法相(右)(9月30日、帯
広市の帯広刑務所で)

帯広刑務所を 河井法相視察

河井法相は30日、帯広市の帯広刑務所を視察した。同刑務所は2019年度から、受刑者が塀の外で農業訓練を段階的に行い、更生や就農につながるモデル事業を始めており、河井法相は「『帯広モデル』として成功してほしい」と期待を寄せた。

同刑務所は、塀の外に金網のフェンスで囲われた約3・5畝の農場がある。受刑者は更生のため、農作業

を行い、収穫した作物は、全国の刑務所の矯正展で販売されている。

モデル事業は、受刑者を選抜し、フェンス内農場で農業訓練を行い、作業の定着度や脱走の危険性などを見極めた上で帯広や網走、旭川の各刑務所のフェンスのない農場で農業者として育成する。将来的には就農し、社会復帰を目指す試み。一方、帯広刑務所によると、受刑者約300人の7割以上が関東地方の出身者で、出所後の農業法人の受け入れ態勢を整備する必要があるという。